

中学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 国分 裕昭

日 時	令和5年11月25日（土） 第1限 9:30～10:20
場 所	第1研修室
学年・組	中学校3年C組39人
単 元	より良いプレゼンを考えよう Unit 5 Plastic Waste <i>Here We Go! ENGLISH COURSE 3</i> (光村図書)
目 標	環境問題について、聞き手や発表の目的を考慮したプレゼンテーションを考え、実践することができる。 1. 社会的な話題についてのプレゼンテーションにおいて、目的・場面・状況を意識して適切な話の流れを組み立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） 2. 関係代名詞や後置修飾の特徴や決まりを理解している。（知識及び技能） 3. 関係代名詞や後置修飾などを活用して、社会的な話題についてのプレゼンテーションを理解することができる（知識及び技能） 4. 相手が理解しやすいように、社会的な話題をまとまりのある文章で説明しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

指導計画（全7時間）

第一次 教科書本文の内容・言語材料の理解 4時間

第二次 プレゼンテーションにおける聞き方・話し方の検討と実践 3時間（本時 2/3）

授業について

授業者は、言語使用は極めて文脈依存的ある、つまり、言語を使用する状況や伝える相手、伝える目的によって言語使用は大きく変わるものであると考えている。そこで平時の授業では、目的・場面・状況を意識した言語使用について考える展開を適宜設けている。帯活動では、言語で表しにくいものを、英語で相手に伝えることを目的として、語句や文などで表すことのできる概念や絵や写真などの視覚的な事物を、英語を通じて相手に理解させる活動を行っている。また、教科書の題材やデジタル教科書における音声や映像資料を基に、教科書本文を実際の場面を想定した際に、より自然にするために必要なことは何かを検討する時間を適宜設けている。こうした、具体的な場面・状況での英語使用について考える中で、目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを行うことのできる生徒を育成できるのではないだろうか。

この単元では、教科書のプレゼンテーションを分析することを通して、具体的な目的・場面・状況におけるよりよいプレゼンテーションの在り方を模索させるとともに、その「考え方」にフォーカスを当てることで、汎用的なプレゼンテーションの「術」を検討することを目指している。具体的に迫ることを通じて「人の見方」、「法の説き方」を意識した英語使用に迫る授業の在り方を探っていく。

題 目 目的・場面・状況に応じた英語使用の探究

本時の目標

1. プラスチックごみの問題についてのプレゼンテーションにおいて、聞き手や発表の目的を意識して適切な話の流れを組み立てている。（思考・判断・表現）
2. 相手が理解しやすいように、プラスチックごみ問題について、まとまりのある文章で説明しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

本時の評価規準（観点／方法）

1. プラスチックごみの問題についてのプレゼンテーションにおいて、聞き手や発表の目的を意識して適切な話の流れを組み立てている。（思考・判断・表現/パフォーマンステスト（後日））
2. 相手が理解しやすいように、プラスチックごみ問題について、まとまりのある文章で説明しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度/活動の観察）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
(前時まで) ・よいプレゼンテーションの分析及び「プレゼンのポイント」の作成と共有	・グループでわかりやすいプレゼンテーションに必要なスキルを分析する。 ・「よいプレゼン」を成立させるために必要なポイントを整理し、共有する。	・あらかじめ一般に公開されているプレゼンテーション動画を整理してプレイリスト化しておく。 ・デジタル教科書付属の教科書本文を基にした映像や、一般に公開されているプレゼンテーションを、GIGA パソコンを用いて参照させ、工夫する点、参考になる点を整理させる。
(本時) ・帯活動 ・「ポイント」の確認(復習) ・「ポイント」をクリアするために教科書のプレゼンを revise する	・与えられた情報を英語で伝え合う ・前時で整理した、プレゼンのポイントを全体で共有する ・「プレゼンのポイント」をもとに、教科書のプレゼン内容や、デジタル教科書内の動画を分析し、良い点と改善点を整理する。 ・「学習した内容を同じクラスの生徒に発表する」という状況における、教科書のプレゼンテーションをより良いものにするための具体的な方策を考える。 ・Revise したプレゼンを全体で共有する	・前時の生徒が書いたテキストを基に、一定の方向付けができるように整理を行う。 ・グループで GIGA パソコンを用いて、繰り返しデジタル教科書付属の音声を聞いたり、動画を視聴したりして、分析を行わせる。 ・「ポイント」を基に、DeepL Write などを用いて具体的な英語表現を検討したり、発表のふるまいなどを考えさせる。 ・DeepL Write などを用いる際はその表現を鵜呑みにせずに、辞書などを併用したり、教師に確認するように促す。
備考		

Unit 5 Plastic Waste Part 1 & Part 2

A Good Presentation is ...? 【1】

Date _____ Class _____ No. _____ Name _____

◎ What does a good presentation consist of?

	発表者の立場から	聞き手の立場から
言語面 (内容・表現)		
非言語面		

➡ Web 上のプレゼンテーションを複数、視聴して、もっと分析してみましょう。

視聴したプレゼン名／Web サイト名	分析したこと (A good presentation is...?)

◎ 上記を踏まえて、良いプレゼンをする上で、大切だと思うポイントをまとめよう (Plastic Bags のプレゼンを考えよう)

言語面 (内容・表現)	
非言語面	

Unit 5 Plastic Waste Part 1 & Part 2

A Good Presentation is ...? 【2】

Date _____ Class _____ No. _____ Name _____

◎ 良いプレゼンをする上で、大切なポイント（このクラスのまとめ）

発表者として	聞き手として

◎ 上記ポイントと照らして、Hajin と Kota のプレゼンを評価してみましょう。

	<u>クリアできている点</u>	<u>改善を要する点</u> ☞改善策も記しましょう
言語面		
非言語面		

Make a Better Presentation

Goal: You are going to give a presentation to students in the same grade at your school. Each group has done some research on environmental problems. Your team (in pairs) will talk about the problem of plastic waste.

Unit 5 Part 1 及び Part 2 の本文（＝プレゼンテーションの原稿）を、
ダブルスペースで掲載しました。

＜全体を通して意識すること＞

Give your presentation : Take notes below when you listen to your friends' presentation

実践上の留意点

1. 授業説明

本実践では、英語を『特定の状況』『特定の相手』『特定の目的』に応じて使うことを重視した。つまり、具体的な相手を想定しながら、言語的・非言語的に適切な表現を考え、選択する力を育てることを目指した。その観点で教材を読んだとき、いくつかの違和感を覚えた。例えば、会話の流れが不自然であったり、複数人の会話文で一人の発言が誰にも拾われないことがある、などである。中学校の教科書なので制約が多いのは仕方のないことだが、しかし、それを「仕方のないことだ」と割り切って指導するのは望ましくない。そこで、今年度の授業実践ではこのような違和感のある場所を敢えて掘り起こし、よりスムーズなコミュニケーションにするために言語的・非言語的な観点からどのような修正が可能かを検討し続けてきた。

今回の実践では、プレゼンをターゲットとし「良いプレゼンとは何か」を探究し、その内容を全体で共有したうえで、各自のプレゼンに取り入れる活動を行った。公開研究授業では、各自が探った内容を全体で共有し、どのように落とし込めるのかを検討すると言うところをご覧頂いた。

ICTの活用においては、前時の「良いプレゼン」を探究する中で、TED など、インターネット上にある動画を複数視聴させ、生徒の気づきをグループやクラス全体で共有するといった実践を行った。また、本教科書はデジタル教科書の補助教材として教科書本文を役者が演じる動画が掲載されている。こちらも1つのプレゼンとして視聴させ比較するように仕掛けた。複数を比較し、自分たちのプレゼンテーションでの参考にしていくことで主体的に参加する授業の構成を行った。

2. 研究協議より

実践後の研究協議やその後のアンケートにおいて、「適切さ」に着目したアプローチについて肯定的なご意見を頂いた。英文の『正しさ』を指導することは重要であるが、実際のコミュニケーションの観点から見ると、相手の状況や伝える目的に応じた言語使用に焦点を当てた指導も有用であることを評価したものであろう。

また「生徒と作る授業」という評価も頂いた。プレゼンテーションに関する気づきは生徒の発言から引用したものであり、生徒の声を教材化し、それを授業の中で展開することを心がけた点が評価されたのだと考えられる。しかし、同じような意見を複数採り上げるなど冗長的になったところがあり、提示の方法は工夫の余地があった。